

# 1 現職教育

## (1) 現教全体計画

### 1 研究主題

#### 学校・家庭・地域で〈自分づくり〉に努める子どもの育成 ～ 自分も相手も大切に作る「伝え合う力」を育てる ～

##### (1) 背景

学習指導要領 第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針の2の中に「道徳教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、児童が自己の生き方についての考えを深め、…豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。…」とある。

「自己の生き方」が追加され、自らを見つめ、自らに問い掛けることを出発点に、他者、自然や崇高なもの及び集団や社会とのかかわりの中で自らの生き方についての考えを深めることが重要であると示されている。

##### (2) 本校の児童の実態

本校の児童は、全体的に見ると素直で優しい児童が多い。学級の中では自分の居場所があり、安定した友だち関係を持ち、心が安定している児童が多い。また、あいさつや会釈、廊下歩行、言葉づかい等は、指導の成果が現れ、たいへんよくなっている。学習に対する意欲は個人差が大きく、家庭での生活習慣・学習習慣にも差がある。教師の指示にはよく従うが、自分で考えて判断し、主体的に行動することが難しい一面がある。授業や日常生活においては、自分に自信がもちにくいいためか、自分の考えをしっかりともち、うまく主張することができにくいこともある。言葉でうまく表現できずトラブルになる場面も見受けられる。

これらのことは、望ましい人間関係を築くために必要なコミュニケーション能力の未熟さや生活や学習に対する意欲や自尊感情の面で課題があると考えられる。そこで、人とのかかわりを大切にすることを根底に考え、「伝え合う力」を育てることを目指した。

##### 児童の実態から生まれる教師の願い

- ・ 自分で考え判断し、自信をもって行動できる児童を育てたい。
- ・ 自分も相手も大切に作る言葉遣いや態度を身に付けさせたい。
- ・ 望ましい人間関係を結ぶ技能を身に付けさせたい。
- ・ 安定した友だち関係を持ち、学級の中に心の居場所をもたせたい。
- ・ 基礎学力（漢字・計算）における個人差を縮めたい。
- ・ 家庭における生活習慣（学習習慣）を身に付け、学習への意欲を高めたい。

### 2 研究主題について

#### (1) 〈自分づくり〉に努める子どもとは

自分を見つめて自分を知り、よりよい自分を目指して努力する子どもを「〈自分づくり〉に努める子ども」ととらえる。

「自分を見つめ自分を知る」とは、今の自分の長所を伸ばし、短所を少しでも克服しようと努

めることである。「よりよい自分を目指す」とは、様々な人と望ましい人間関係を築くことができる自分を目指すことである。そのためには、できるだけ多様な人とかかわり、互いのよさを学び合う場が必要である。そこで、学校内はもちろん、家庭や地域などの人とのかかわりを通して<自分づくり>に努める。

(2) 自分も相手も大切に作る「伝え合う力」とは

「伝え合う力」とは、単に自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の気持ちや考えを聞いたりするだけではない。①話し合い活動や表現活動を通して、互いの気持ちや考えを適切に伝え合うことができる力、そして②相手の思いを察し、推し量るとともに、自分の思いも伝える中で共に高め合う力ととらえる。

### 3 研究の視点

<視点1> 心の安定と学ぶ意欲

研究仮説1

児童が安定した人間関係をもち、学級の中に心の居場所ができれば、意欲的に学び、伝えたい思いのものを育むことができるだろう。

友だちと学び合い、学んだことを分かち合うことで、互いに高まろうとする雰囲気があり、自己存在感が感じられる学級づくりをすることを大切に作る。つまり、相手の身になって考え何でも言い合える関係、励まし協働し合う関係、よくないことはよくないと互いに指摘し合える関係、協力して問題を克服する共同関係などを学級に育てることである。そのために、教師は児童の日頃の言動を観察したり、児童や保護者と対話したりするとともに、アンケート調査や教育相談などをもとに、児童や学級の実態把握に努め、学級経営の改善に役立てる。

<視点2> 基礎・基本の充実

研究仮説2

基礎的な知識や技能が充実すれば、基本的な生活習慣や学習習慣、「伝え合う力」を育成するための技能が身に付き、自分も相手も大切に思う心の素地が養われるだろう。

基本的な生活習慣や学習習慣を身に付け、「伝え合う力」を育成するための基礎を培う活動を充実させる。そこで培った知識や技能を、学び合いのある授業と関連させながら、さらに充実したものにし、自分も相手も大切に思う心の素地を育てる。

<視点3> 学び合いのある授業

研究仮説3

授業の中で、人とかかわり学び合う場を充実させれば、よりよい人間関係を築くことができるだろう。

友だちと考えのよさを学び合い、本時のねらいを達成し、ふり返ることによって自分の成長が確かめられる授業を「学び合いのある授業」と呼ぶ。「学び合う」とは、自分の考えと友だちの考えを比べ、友だちのよさを自分に取り入れたり、よりよい考えを見つけたりすることである。

「ふり返る」とは、各教科等の授業においては、その時間に学んだことをまとめ、自分の伸びを確かめることである。また、道徳の時間においては、自分の生活を見直し、今後の自分の行動を改善しようとするすることである。

#### 4 研究内容

##### <視点1> 心の安定と学ぶ意欲

###### (1) 学級経営を充実させるための「アンケート」

アンケート調査をもとに学級の実態を探り、今後の学級経営の方針を明確にもって指導にあたる。

###### (2) 児童との信頼関係を確立するために教職員が自分を語る「お話タイム」

教師と児童の信頼関係を確立し、児童が安心して学習できる環境をつくることで、児童の心が安定し、学ぶ意欲も高まると考える。そのために、毎週水曜日の給食の時間に校内放送で、全教職員の体験談を話す機会を設ける。

###### (3) 人間関係づくりの基礎を学ぶ「スキルタイム」

生活目標や道徳の時間と関連させ、学級の実態に応じて題材を選び、どのような接し方をすれば人間関係を円滑につくることができるかを考え、日常生活における実践へつなげていく時間として設定する。

###### (4) 好ましい人間関係を育てるための「定期的教育相談」

教職員がどのように児童にかかわり、一人一人にどのような力を育てていくことが大切であるかを明らかにすることで、児童一人一人が自信をもち、望ましい人間関係を構築するための支援ができると考える。そのために、従来の教育相談と組み合わせて、定期的な教育相談を実践する。

##### <視点2> 基礎・基本の充実

###### (1) 漢字や算数の基礎の定着を図る「ドリルタイム・チャレンジテスト」

児童に是非身に付けさせたい漢字や算数の内容をテストする。ファイルにとじ、成果や伸びがわかるようにし、学びの足跡として、家庭との連携にも活用する。

###### (2) めあてをもって取り組む子どもを育て、家庭と学校をつなぐ「レッツスタディ」

「レッツスタディ」は、しおりのような形態にして、児童がこれを連絡帳や自主勉強ノートにはさみ、毎日帰宅後、これを見ながら規則正しく生活できるようにする。個々の児童の実態に応じて自主勉強ノートを工夫して使い、家庭学習の定着を図ることを目指す。また、児童がめあてを自分で決めて記入し、振り返る機会も設定する。

###### (3) 音読の力と豊かな心を育てる「花小ポエム」

児童に親しんでほしい詩や古典を厳選し、朝の会や全校集会、家庭学習などで活用する。

##### <視点3> 学び合いのある授業

###### (1) 学び合いのある授業の充実

各教科や道徳、総合的な学習の時間などの授業においては、友だちと学び合い、本時のねらいを達成し、自分の成長が確かめられる授業を目指す。

「学び合いのある授業」には、基本的に次の4つの学習過程があると考えられる。特に、学ぶ意欲を高め、伝えたい思いのもとを大切にする授業を構想する。そのためには、「つかむ」過程と「学び合う」過程を重視した指導を行う。

##### <学び合いのある授業における4つの学習段階>

1 「つかむ」	…	本時の学習課題をつかむ。本時の自分の目標を明確にする。など
2 「もつ」	…	主体的に学習課題を解決しようとする。解決方法を見つける。解決の見通しをもつ。自分の考

えをもつ。ノートなどに自分の考えをかく。など

- 3 「学び合う」… ○相手に自分の考えをわかりやすく伝える。（言葉、動作、態度、絵や表、音）  
 ○相手の考えを理解しようとして聴く。相手の思いや意図を理解しようとする。  
 （うなずきながら聞く。相づちを打ちながら聞く。驚きや賞賛の動作をしながら聞く。自分の考えとの相違点を明確にしながらかく。）  
 ○相手に対して自分の意見や質問を投げかける。その意見につないだ意見を言う。友だちと異なる立場の意見を言う。質問に答える。  
 ○相手から学んだことを自分らしい表現でまとめる。
- 4 「ふりかえる」…本時の活動を振り返り、次の課題を探る。本時の学習内容をまとめる。本時の自分の伸びを確認する。（ノートやワークシートに）

① 学び合った過程がわかるノートづくり

友だちとの学び合いにより本時の基礎・基本を身に付けるため、ノートづくりを重視する。

② 学び合う学習形態における伝え合う力の育成

	声の大きさ	視線・態度	表現物
ペア	・相手に聞こえる大きさ	・相手の目を見て話す、聞く	・ノートやカードなど相手に分かるもの
グループ	・グループ内の友だちに聞こえる大きさ	・グループ内の友だちの様子を見て話す、聞く ・伝わっていないと感じたら話し方を変える	・ノートやカードなどグループ全員に分かるもの
一斉	・クラス（教室にいる人）みんなに聞こえる大きさ	・教室の中央に向けて話す ・話し手の方に向けて聞く	・クラス全体に見える大きな表現物・プロジェクタで大きく提示

③ 「学び合う」過程における児童に使わせたい言葉

児童に使わせたい言葉	教師の手だて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここまではいいですか？この続きを説明してもいいですか？</li> <li>・間違っていたので言い直します。</li> <li>・よく分からないのでもう一度説明してください。</li> <li>・〇〇さんの考えとは違うのですが、その考えもいいと思います。</li> <li>・〇〇さんの意見のここを直すといいと思います。</li> <li>・〇〇さんの意見を聞いてよく分かりました。</li> <li>・みんなで考えたのでよく分かりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい状況をつくる。（目的意識・相手意識をもたせる）</li> <li>・教材・教具・題材などを工夫し、もっと考えたいような提示をする。</li> <li>・課題意識の連続が図れる単元構成の工夫をする</li> <li>・話し方の例を示す。</li> <li>・いい言葉を使えた時に大いにほめ、カードに書いて常設する。</li> <li>・「本当にそうなの」と揺さぶる発問をする。</li> <li>・意図的指名により、思考を深めていくための交流を工夫する。</li> </ul>

(2) 道徳の時間の充実

道徳の時間における指導の類型には、①単時間道徳学習 ②総合単元的な道徳学習 ③繰り返し主題道徳学習がある。各教科や特別活動、総合的な学習の時間と関連させながら、豊かな体験や

表現活動を計画的に取り入れた単元を構想する。

単時間道徳学習においては、資料や体験をもとに学んだ道徳的価値を広げたり、深めたりする学習活動を大切にする。

(3) 各教科等のねらいとともに、伝え合う力や道徳性を伸ばす視点を明らかにした授業

学習指導要領解説 各教科編には「第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、〇〇科の特質に応じて適切な指導をすること。」とある。また、「各教科における道徳教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、〇〇科の目標と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要がある。」と示されている。

そこで、各教科等のねらいとともに、伝え合う力や道徳性を伸ばす視点を明確にして授業を行う。

5 研究組織

